

越山若水

2021.4.6

新型コロナウイルスの第4波到

来が現実味を帯びている。大阪、

兵庫、宮城の3府県では「まん延

防止等重点措置」が初めて適用さ

れ、福井県も3度目の拡大警報が

発令中である▼感染力の強い変異株が次第に
猛威を振るい、列島全体が戦々恐々としてい
る。東京五輪・パラリンピックを控える政府

としては、何とか抑え込みたいところだが、

目新しい処方箋の持ち合わせはない。飲食店
の営業時間短縮、不要不急の外出自粛を要請
するばかりだ▼ところでコロナの出現以来、

幾度も耳にした「不要不急」の言葉。もちろ

ん「急いである必要のないこと」「なくても
構わないもの」という意味だが、経済学者の

佐伯啓思さんが指摘するには、人間の生活に

は「不要不急のもの、無駄なものがいっぱい
ある」らしい▼むしろ今日の経済は無駄、過

剰なもので成り立っている。大勢で押し寄せ

る外国人観光客、巨大なテーマパーク、夜の

街関連やグルメ産業…。これら不要不急のも

のがなくなると、たちまち経済が回らなくな
る。しかし必要と不要の間に「大事なもの」

があるという▼それは例えば、信頼できる人

間関係、地域の生活空間、澄んだ大気、医療

や介護の安心、大切な書物や音楽である。一

日も早い景気浮揚を期待する声もあるだろう
が、コロナ禍の今こそ市場原理と一線を画す

「大事なもの」は何か、私たちも考えたい。